

民間競争入札に準じた手続による一般競争入札  
対象事業（案）

施設の管理・運營業務

○法務省

- ・ 矯正研修所

○農林水産省

- ・ 農林水産研修所
- ・ 食料消費技術研修館
- ・ 農業技術研修館
- ・ 生活技術研修館

独立行政法人の業務

○（独）国際交流基金（外務省）

- ・ 国内映画祭実施業務

○（独）日本貿易振興機構（経済産業省）

- ・ 外国企業誘致担当者育成事業
- ・ 環境関連ミッション受入事業

国際交流基金アジア映画上映会 2009（仮称）実施業務に係る措置に関する計画（案）

平成 20 年 5 月  
独立行政法人国際交流基金

1 措置に関する計画案

公共サービス改革基本方針（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）（別添 1）に基づき、（独）国際交流基金が主催する国内映画祭の実施業務における民間競争入札について、以下のとおり計画案を策定した。

事項名	措置の内容等	担当府省
<p>（独）国際交流基金の文化芸術交流事業</p>	<p>○ （独）国際交流基金の文化芸術交流事業のうち、基金が主催する国内映画祭の実施業務について、民間競争入札を実施する。その内容は、原則として次のとおりとする。</p> <p><b>【業務の概要及び入札等の対象範囲】</b> 国際交流基金アジア映画上映会（仮称）に関する会場運営業務、広報宣伝業務、日本語字幕作成業務</p> <p><b>【入札等の実施予定時期】</b> 平成 20 年 11 月までに入札公告し、平成 21 年 1 月から落札者による事業を実施</p> <p><b>【契約期間】</b> 平成 21 年 1 月から同年 3 月までの 3 ヶ月間</p>	<p>外務省</p>

2 計画案の策定に当たったの考え方

(1) 業務の概要及び入札等の対象範囲

①国内映画祭事業（国際交流基金アジア映画上映会（仮称）事業）の概要については、別添 2 を参照。

②委託業務の内容

○会場運営業務

チケット（当日券）・カタログ販売及び収入の管理・集計  
プレス受付  
会場整理

## 映画の映写

### アンケート収集・集計

#### ○広報宣伝

プレスリリース作成・配布

チラシデザイン・原稿執筆・編集・制作

チラシ配布

雑誌やウェブ、ラジオ等のメディアを使った広報

取材対応等

広報クリッピングの作成

#### ○上映映画の日本語字幕作成

新作映画の翻訳・監修者の選定、日本語字幕作成

- ③ 当該映画祭の実施業務のうち、今回の民間競争入札の対象としない業務及び対象としない理由

上映会の企画立案業務（上映する映画作品の選定等）及び、上映許諾権の交渉、上映フィルムの入手等は、当基金の海外事務所が現地にあり、最新情報の入手ができること、またその交渉にあたり利便であることより、国際交流基金が実施することとした。また、会場手配業務（会場の決定、ならびに予約）は、時期的な問題により、当基金が実施することとした。

- (2) 入札等の実施予定時期

例年3月に上映会を開催しているため、本上映会も平成21年3月の開催とした。通常、会場運営業務の準備、広報宣伝の実施、日本語字幕作成に2ヶ月程度を要するため、平成21年1月から落札者による事業開始とした。

- (3) 契約期間

独立行政法人整理合理化計画（平成19年12月閣議決定）等に基づき、各種事業の見直しを行った結果、来年度以降、国内映画祭（上映会）を実施しない可能性もある。そのため、単年度契約としている。

## 公共サービス改革基本方針別表（平成 19 年 12 月閣議決定）（抄）

## 7. 独立行政法人の業務

事項名	措置の内容等	担当府省
(9)(独) 国際交流基金の文化芸術交流事業	<p>○(独) 国際交流基金の文化芸術交流事業のうち、基金が主催する国内映画祭の実施業務について、民間競争入札の対象とする。このため、平成 20 年度に民間競争入札を実施し、同年度から落札者による業務を実施する。</p> <p>【措置に関する計画の策定】            上記措置を前提に、平成 20 年度に実施する入札等の実施予定時期、契約期間を内容とする計画を、監理委員会と連携しつつ、同年 5 月末までに策定する。</p>	外務省

## 国際交流基金アジア映画上映会 2009（仮称）事業概要

1. プログラム名：  
国際交流基金アジア映画上映会 2009（仮称）
2. 上映会の目的・意義・位置づけ：  
日本では紹介される機会の少ない非欧米圏の映画を紹介することにより、国内における異文化理解を増進することを目的とする。日本では映画の輸入及び映画祭の開催は通常商業ベースで行われているが、本プログラムの趣旨はこのような商業ベースでは紹介され難いアジアの映画の上映を、非営利の文化交流を目的として実施している点である。
3. 主催者：  
国際交流基金（ジャパン・ファウンデーション）
4. 会期：  
2009年3月初旬～中旬頃の2日間（予定）
5. 会場：  
東京都内（限られた予算・人員で最も効果的な発信が可能であることから、開催地としては東京を選択した。）
6. 予想入場者数：  
700～800人
7. 内容：  
本年度はアジア映画上映会 2009（仮称）と題し、2日間で約6～8本の英画を上映する。うち、2～3本程度を新作とし、それ以外は、過去に基金主催映画祭にて上映した秀作・人気作からのアンコール上映とする予定。新作上映作品に関しては、タイ、マレーシア、インド、インドネシア、フィリピンにある国際交流基金事務所からの情報、協力を得て調査中である。  
なお、従来は、テーマ、国を絞って多数の映画を上映してきたが、今回は、東南アジア・南アジア地域で話題になった作品、人気のあった新作を総括することとし、各国あたりの作品数は減らすこととする。
8. 備考：  
基金の主催映画祭においては、コンペティションは実施していない。  
賞の授賞を行わない理由は、事業の目的が外国文化の日本紹介であり、作品間の優劣

を決定することではないからである。

(参考) 過去の実績等

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、日本では紹介される機会の少ない非欧米圏の映画を紹介する事業を1980年代に開始したが、これまでにアジア映画シリーズ、アフリカ映画祭、地中海映画祭、アラブ映画祭などを実施、好評を博してきた。

最近の成功例を挙げると、例えば、アラブ映画祭2005では、国内のみならず海外でも大きな話題となり、映画祭終了後から半年間にわたって、中東諸国6各国のテレビ局にて映画祭の様子の特集を組むなど、日本人が中東の芸術文化に関心を寄せている様子が中東アラブ地域に広く報道された。またアラブ映画祭2007では週末の上映で立ち見が出るとともに、特にエジプト映画「ヤコービエン・ビルディング」はNHKのBSで特集が組まれた。また、アジア映画祭で開催されたアピチャートポン・ウィーラセータクン監督や、ヤスミン・アハマド監督の作品は大変好評で、国際交流基金が日本国内における非営利上映権を買収した作品が、地方の多数の映画祭において現在もなお巡回上映されている。